

宮元親興会

江戸四宿と呼ばれた中山道板橋宿。町会は宿場の中心「仲宿」に位置し、その起源は町火消・見廻組にさかのぼります。幕末は、皇女和宮が江戸入城前に当町の本陣に宿泊。廃藩置県後は北豊島郡板橋町となり、町長3名を輩出。中でも『いたばしの昔話』に登場の水村清氏は、町の青年会長、校医、町会議員を経て、北豊島郡最後の町長となりました。

区の成立時は、板橋八丁目宮元町会でしたが、戦時配給体制確保のため町会を分離。現在の仲宿睦町会ができました。戦後占領下、結社が制限され活動を停止しましたが、昭和27年6月、講和条約締結に合わせ、宮元親興会発足を届出。しかし、ポツダム政令失効は10月末のため、総会は翌年開催。戦後復興期は学用品援助、肝油の配布、消毒などの活動も実施しましたが、「安全・安心な町づくり」のスローガンは今昔変わりありません。

現在は中学校と連携した防災訓練をはじめ、週2回の資源ゴミ回収も継続し、SDGsに貢献しています。800年以上続く地元誇りの氷川神社例祭もコロナ収束による再興を期待し、さらなる町会活動が広く若い世代にも繋がるよう願っております。

※令和4年2月28日に発行した「板橋区町会連合会 創立60周年記念誌」の紹介文を掲載しています



北豊島郡時代製作の山車「令和の大修理」後、諸祈願を終えた1枚